

## 創造表現コース(2年生 学校設定科目)

今年度も諏訪哲史さんによる授業が開講されました。



冒頭で思い出を語る諏訪先生

1時間目では、自己紹介や、母校である名西の思い出話から始まり、諏訪先生の秘蔵資料までもが配布され、後輩たちへ熱いメッセージが送られました。

生徒たちからの質問も受け付けてくださり、彼らからは、諏訪先生の著書「アサッテの人」「りすん」「領土」に関する質問ができました。諏訪先生自身の人となりに関する質問もありましたが、1つ1

つ丁寧に答えていただきました。言葉の端々に名西での経験が生きていることがうかがえ、生徒たちは聞き入っている様子。名西生であることに誇りを感じた生徒もいました。

2時間目では、「表現者に絶対不可欠な適正」「文章表現概論」という2題をテーマにした講義でした。

前半部では、表現というものが、何を下敷きにされているのか、ということを知りやすく説明いただきました。表現者の適正にうなずきながら話を聞く生徒の姿が印象的です。

「文章表現概論」では「小説＝物語＋詩＋批評」ということが図示され、疑問を持った生徒たちは食い入るように諏訪先生を見つめ、興味をそそられていました。来週も諏訪先生の授業が設けられています。横光利一「春は馬車に乗って」「蠅」を用いた読書会が予定されております。生徒と諏訪先生のやりとりが楽しみです。



「小説」を構成する3要素の説明

### 諏訪哲史 (すわてつし)

名古屋西高校、國學院大學文学部哲学科卒業。東海学園大学非常勤客員教授。名古屋鉄道を退職し、執筆を始め、処女作「アサッテの人」で文壇デビューをする。同作品は第50回群像新人文学賞と第137回芥川龍之介賞をW受賞するなど、高い評価を受ける。小説のみならず、エッセー集や文学批評集など幅広い分野で活躍している。2019年度より名古屋西高校創造表現コースの特別非常勤講師に就任。